

平成29年 第10回

小林市教育委員会

定例会

会 議 録

平成29年9月22日（金）

## 平成29年 第10回教育委員会定例会 会議録

- 1 日時 平成29年9月22日（金） 午後6時～
- 2 場所 小林中央公民館 2階 会議室
- 3 出席委員 榎健一郎 大部菌智子 椎屋芳樹 大角安子 中屋敷史生
- 4 参与職員 山下康代 日高智子 深田利広 大山和彦 松田和弘  
(調整職員) 川俣洋寿

5 説明職員

6 会議内容

開会 18:00

榎委員長 皆さん、こんばんは。

ただいまより、平成29年9月15日付小林市教育委員会告示第13号で招集されました平成29年度小林市教育委員会定例会を開催いたします。

本日は5名の傍聴者がいらっしゃいます。

まず、お諮りします。小林市教育委員会会議規則第15条に基づき、本日の会議を公開することによろしいでしょうか。(異議なし)

ありがとうございます。

異議はないようですので、それでは、傍聴者の皆様は、小林市教育委員会会議傍聴規則により傍聴くださいますよう、よろしく願いいたします。

榎委員長 それでは、早速議事に入らせていただきます。

まず、報告から行います。

報告第15号平成29年度第6回市議会定例会について、お願いいたします。

山下教育部長 それでは、報告第15号平成29年度第6回市議会定例会(9月議会)について報告いたします。

2ページをお開きください。

9月4日に本会議が開会されました。本日22日、委員会が終わったところです。教育部の全ての課が本日終わりました。10月3日が本会議閉会日になっております。

本日は、一般質問の報告をさせていただきます。本日行われました委員会の

報告につきましては、次回の定例委員会でまとめて報告したいと思っております。

3ページから12ページまでは、一般質問の通告書を添付いたしました。今回、12人の一般質問の中で、教育部には4人の方からの質問がありました。概要を報告いたします。

13ページになりますが、福本議員です。

障がい者支援ということで、障がい者に対応した公共施設の改修ということで質問がありました。現在、障がいをお持ちの方から、ここを改修してくださいという要望はきていないですかという質問がありました。

私から、まず学校教育課ですが、障がいのある児童生徒が入学、転入等で在籍する際に、保護者の方からバリアフリー、段差の解消などの相談はあります。これにつきましては、在籍する前に施設の段差の解消、スロープや手すりの設置など、随時行っていますと答弁をしております。社会教育課とスポーツ振興課については、現在のところ要望はきておりませんと答弁しております。

それから、バリアフリーの対応ということで、学校施設で和式のトイレが多いが、現在はどのような状況かお尋ねがありました。

14ページになりますが、私から、学校のトイレの洋式化については、小中学校の洋式化は32.9%となっております。宮崎県の平均が31.4%、それから、全国の平均は43.3%となっております。県の状況の平均は上回っているんですけども、全国の平均43.3%までには持っていきたいということで答弁をしています。

それから、15ページですが、同じく福本議員です。地域活性化についてということで、地域に根差した郷土料理の継承ということで、市の取り組み、これからこのような技術をどう守り継承していく考えかお尋ねがありました。

前回、28年3月に福本議員からマイスター制度ということで質問がありましたので、その後、霧島市にあるNPO法人霧島食育研究会に視察研修に行きました。この後、小林でどういうふうに取り組んでいくかと検討を行ったところです。現在、社会教育課では、公民館講座で郷土料理継承、その普及活動を行っております。そして、地域の食材を生かしながら、地域の高齢

者、または調理科の高校生、あるいはヘルスマイトを活用して事業を展開しております。

さらに、今年度は、西諸定住自立圏共生ビジョンの取組の中で、生涯学習講座の講師人材バンクとして西諸広域で冊子の作成を予定しております。現在、多種多様な講座の講師を自薦・他薦問わず募集をしておるところであります。地域で郷土料理を得意としている方、それから、高齢者の方で郷土料理に関するすぐれた知識や技能を持っている方を発掘して、この方々を講師として登録する予定で今進めていると答弁をしております。

17ページにまいります。

大迫議員になりますが、教育行政について、教育環境についてということで、まず、学校の今後の改修・改築計画はどうなっていますか、今回の夏休みの短縮について、それから午前中5時間授業についてということで質問がありました。

私から、まず学校施設の改修・改築ですが、平成28年度時点で耐震化率は100%を達成しました。しかし、学校施設の老朽化に伴って、漏水とか雨漏り、小規模な修繕が発生しております。それらの修繕につきましては、年に1回各学校とのヒアリングを行いまして修繕工事の依頼を取りまとめて、優先順位をつけながら修繕工事を行っているところであります。また、年度途中におきましても、学校側から緊急に修繕依頼があった場合は、学校の聞き取り、現地調査を行いながら、優先順位をつけて修繕を行っております。また、体育館、それから三松中学校以外のプールになるんですが、改修・改築につきましては、平成32年度策定予定の長寿命化計画に基づき検討していきたいと考えておりますと答弁しております。

それから、午前中の5時間授業についてですが、学校の校時程などの教育課程の編成は、学校が主体となって保護者の了承を得ながら組み立てております。午前中に5時間授業をしている学校のメリット等を答えて、教育委員会といたしましては、できるだけ学校側の主体性を尊重してまいりたいと考えております。また、子どもたちに過重負担となるような教育課程がある場合は、指導をしてきたいということで答弁をしております。

それから、部活動の休業日、20ページになりますが、教職員の労働環境についてということで現状のお尋ねがありましたので、教育長から答弁をして

おります。それから、22ページになりますが、貧困対策ということで、就学援助の中の修学旅行のほうの質問がありましたので、私から答弁をいたしました。

25ページになります。穴見議員です。

高齢者及び障害者の外出支援ということで、学校のスクールバスの空席を利用してできませんかというような質問がありました。

私から答弁をいたしましたが、内山地区のスクールバスと須木地区のスクールバスがございます。まず、内山地区のスクールバスについては、内山地区から野尻小中学校に通学する児童生徒を支援する目的で運行しております。本年度は小学生9名、中学生3名の12名が利用しております。運行は、4人乗りの小型タクシー1台、これは4名乗りですが3名乗車しております。最大9人乗りのジャンボタクシーが1台、これには9名乗車の2台が走っております。これにつきましては、小型タクシー、ジャンボタクシーともに乗車定員に余裕がないことから、空席を利用することは困難な状況でございます。

それから、須木地区のスクールバスにつきましては、奈佐木方面と鳥田町方面の2路線で走っております。29人乗りマイクロバス2台で運行しております。このバスにつきましては、奈佐木方面の路線が小学生8名、中学生1名、それから、鳥田町方面が小学生2名、中学生3名の14名の児童生徒となっております。空席はございますが、スクールバス以外の用途での使用となりますと、児童生徒以外の方が乗ることになりますので、いろいろな検討が必要になってくるのではないかとお答えいたしております。

それから、27ページになります。蔵本議員です。

まず、格差・貧困問題ということで、格差・貧困問題対策について、基本的な考え方を教育長からお答えくださいと質問がありました。

子どもの貧困について基本的な考え方といたしましては、教育委員会といたしましては、全ての児童生徒に対して学習機会を均等に提供し、基礎学力を保障しながら、学ぶ意欲の高揚と自分の将来に対して夢を持ち続けることができるような教育環境を整備していきたいと考えております。あわせて、経済的な負担を援助する取り組みが必要だと考えておりますと答弁をしております。

29ページになります。格差、貧困についてということで、入学準備金、就学援助金について質問がありました。

入学準備金につきましては、3月議会で質問をされましたので、それについて私から答えております。平成30年度の入学準備金に関しましては、平成30年2月ごろに支給をしたいと考えております。計画といたしましては、今年度内に要綱の見直し等を行っていきたいと思っております。それから、1月に認定作業、2月に支給、それから、本年の12月の補正予算で計上させていただきたいと答えております。

それから、30ページになります。蔵本議員からです。

バリアフリーのまちづくりということで、例えば体育館、文化会館のバリアフリーについて、どんな問題があると認識していますかと質問がありました。教育委員会が所管する部分につきましては、例えば地区体育館でありましたら、現在スポーツ振興課の所管している施設が34カ所あるんですが、障害者トイレは12施設しかありませんので、障害者トイレの設置が問題になっていると思っております。それから、学校におきましても、小学校、中学校合わせて7カ所しか障害者トイレがありませんので、こういうトイレ、それから手すり等にも問題があるというふうに思っております。それから、社会教育課におきましては、公民館、図書館、それから文化会館には障害者トイレがあるんですけれども、その中で文化会館につきましてはオストメイトの設置がないということで、現時点では一番問題になっていると答弁しております。

その後、蔵本議員から、自分も障がい者の方と一緒にいろんな施設を回りましたということで、体育館、文化会館、テニスコートに障がい者の方が不便なところが幾つかあったということで、ぜひ一度一緒に実態調査をやってもらって、今後計画を立てていただきたいと要望がありましたので、今後は障がい者の方も含め、これは教育部だけではない問題ですので、各課連携をとりながら実態調査をやっていききたいなということで考えております。

議会の報告については、以上になります。

楨委員長

ありがとうございます。

何かご質問ないでしょうか。

中屋敷教育長

オストメイトについて、ちょっと説明したほうがいいんじゃないですか。

山下教育部長 オストメイトとは、膀胱機能障害などの方が、ストーマといって腹部を切開して袋をつけて、排泄をする障がいを持っている方たちのことをいいます。その方たちが外出したときに、その袋を交換するための施設がトイレにあります。普通の手洗いをするだけの部分じゃなくて、その袋を取り出して中を捨てるような施設が必要になります。これは特別に工事をしないとイケませんので、そういう施設になります。

今回できました市役所の本庁舎は、1階、2階、3階、4階全てのところに施設ができております。個々の部分でいきますと、市の体育館の駐車場に障害者トイレが外にあるんですが、そこにもついております。

これについては、文化会館にはいろんな方たちが来られますので、そういう方たち専用のオストメイト対応のトイレが必要だと思っておりますので、文化会館については、今現在、見積もりをとったり、どのぐらい施設が要るか、今ある障害者トイレの中に設置ができそうですので、早急に進めたいと考えております。

槇委員長 今から増えますよね、オストメイトの方。ものごとく大腸がんが増えていて、場所によってはもう必ずオストメイトをつけないと手術できないということが今増えていますから、やっぱり早目にしてやらんと、そういう方が行けなくなると大変ですから早目にしたほうがいいと思います。予算の関係もあると思うし、結構高いと思いますけど、早目早目にやっぱり対処をやったほうがいいと思うんです。今は年寄りだけじゃなくて若い方もしている方がいらっしゃるから、その辺も含めてやっぱり考えていただいたほうがいいと思いますね。

ほか、よろしいでしょうか。

椎屋委員 学校施設を含めて、社会教育関係施設についても老朽化が毎回指摘をされて、限られた予算の中ですので非常に苦慮されているんだろうと思います。特に今、プール関係をよく聞くんですが、怪我の可能性があるとかが、草が生えているとか、更衣室がひどいとか、いろんな意見もあるんですが、その中で、32年度に策定予定の長寿命化計画についてちょっと教えてもらえますか。

槇委員長 はい、どうぞ。

山下教育部長 小林市全体の小林市長寿命化の施設の計画書は、大枠が現在できております。

それに基づいて各課個別の計画を32年度までに作成しなければならないとなっております。

今、文科省から、学校施設を含めて長寿命化計画をつくるための指針が打ち出されましたので、それをもとに、例えば今ある施設を長寿命化するためにはこういうふうな工事が要りますよとか、もうこれは新しく施設をつくらないといけません。教育部だけではないんですけれども、市の財政の検討委員会も担当者を集めて会議が今後されるようですので、早急に教育部としても取り組んでいきたいと思っております。

指摘があったプールについても、どこの学校も本当に古くて、プールの下のほうで怪我をしたという事例も去年ありましたので、その辺は早急に塗り直したりとかしたんですけれども、どこの学校も古いというふうに私どもも認識しております。

楨委員長            ありがとうございました。

ほかにないですか。

中屋敷教育長        関連でよろしいですか。

楨委員長            はい。

中屋敷教育長        本当にプールが今老朽化して、どこの学校もどうするかということで検討に入っているんですけども、三松中学校のプールだけは、道が広くなった関係上、早急にやらなければなりません、ほかのところは大体同じぐらい傷んでいるんですね。そうなったときに、今ある場所に同じように建てるかとなったときに、プールは1年のうちに1カ月ぐらいしか稼働しないわけですね。それに2億も3億もかけるかといったら、もう今の財政では無理な状況にあります。

ですから、考え方としては、小中学校のどちらかに近いところに1個整備して、そこに行ってやるとか、あるいは十三塚運動公園が近いところはあそこのプールを使うとか、それは送迎も想定しないといけないんですけども、そういうふうな考え方にシフトしないと、今までのように古くなったら新しくつくりますよという考えでは多分無理だろうという状況になっています。今言いましたように、長寿命化計画の中で、校舎も含めてどういう形に持っていかというのは研究しないといけないと思うんです。

地区体育館と学校体育館も近いところがありますので、そのグレードを大き



くして1つにするかとか、そのあたりも今後は検討していかなきゃいけないなど思っております。

槇委員長 ありがとうございます。

ほかに何かないですか。(なし)

槇委員長 では、続きまして、報告第16号TENAMUビルの業務委託契約の締結について、お願いいたします。

日高社会教育課長 報告第16号TENAMUビルの業務委託契約の締結について、ご報告を申し上げます。

現在、江南跡地に建設中のTENAMUビルの協議についてですが、地域協力隊2名を含むブリッジ・ザ・ギャップという任意団体と9月1日付で業務委託の契約を締結したところでございます。

期間については29年9月1日から平成30年3月31日まで、委託料の金額につきましては671万5,829円と、税を含むこの金額で契約をしたところですが、現在、事務所を中央公民館の視聴覚室に設置いたしまして、オープンに向けて準備を進めてもらっているところです。

以上、報告を終わります。

槇委員長 ご苦労さまであります。

中屋敷教育長 これについては後で協議があるんですか。

槇委員長 はい。

槇委員長 続きまして、議案第49号に入ります。

平成29年度放課後子ども教室教育活動サポーターの委嘱について、お願いいたします。

日高社会教育課長 議案第49号平成29年度放課後子ども教室教育活動サポーターの委嘱について、教育委員会の同意を求めます。

右の33ページですけれども、永久津の子ども教室に教育活動サポーターを2名、9月1日から30年3月31日まで新たに委嘱をしたところでございます。12名のところを2名追加ということで、現在14名で活動をしていただいているところです。これについて同意をお願いいたします。

槇委員長 ありがとうございます。

何かご質問ないでしょうか。

大部菌委員長職務代理者 大体の年齢でもいいんですけど、何歳ぐらいの方が教えていただ

けますか。

槇委員長       どうぞ。

日高社会教育課長   1人の方は54歳、1人の方は42歳と聞いております。募集ではなくて、自分のほうからぜひしたいということで手を挙げてくださったんですが、1名の方は現在サポーターをされている方の友人ということで、ぜひ協力したいということ、もう一名の方は、実際自分の子どもがこの子ども教室を利用したということで、ぜひ協力がしたいということで参加をしていただいております。

槇委員長       何かほかにご質問ないでしょうか。

はい、どうぞ。

中屋敷教育長    わかったら教えてほしいんですけど、永久津は子ども教室のサポーターがかなり多いじゃないですか。それは地域性というか、何かあるんですかね。ほかの教室からすると永久津はサポーターが多いという感覚がしているんですけど。

槇委員長       はい、どうぞ。

日高社会教育課長   永久津が今14名ということなんですが、このほかに栗須も今現在25名ということで登録をさせていただいています。

永久津については、月1回のミーティングの際に、大体いつ誰が入るといようなシフトを決めていただいているということなんですけども、この2名の方については、実際もう仕事を持っていらっしゃる方なので、自分の勤務以外の時間、自分ができる時間帯で参加をしていただいているということになっております。

槇委員長       はい、どうぞ。

中屋敷教育長    その栗須の25名は、紙屋もカバーしているんですか、別ですか。

槇委員長       はい、どうぞ。

日高社会教育課長   紙屋は別に4名の方がいらっしゃいます。

中屋敷教育長    はい、わかりました。多いですね。まあ栗須小は子どもの人数も多いんですけど。

槇委員長       周りの方がすごいですよね、サポートしてくれる地域も。

ほかにはないでしょうか。(なし)

では、この件につきましてはご承認いただけますか。(はい)

ありがとうございます。

楨委員長

それでは、議案を終わりました、次、協議に入りたいと思います。

本日、協議が3つあります。

まず、小林の未来を担うキャリア教育推進事業について、説明をお願いします。

はい、どうぞ。

大山教育指導監 それでは、資料36ページになります。

小林の未来を担うキャリア教育推進事業について、ご説明いたします。

まず、本市のキャリア教育の全体構想をご覧いただきたいと思います。

本市では、これからの時代を生きる子どもたちが自立した人間としてたくましく社会を生き抜くための社会的・職業的自立の基盤となる能力や態度を育成するために、学校と地域、産業界の連携・協働によるキャリア教育を推進しております。

ご覧のように、子どもたちはたくさんの教育資源に囲まれています。このような教育資源を学校教育に取り入れ、活用する取り組みはこれまでも行われておりました。

図の左側をご覧いただきたいんですが、KSSVC、小林学校支援ボランティアセンターがあります。昨年度は、市内各小中学校において6,316件、延べ2万9,308人の地域住民によるボランティアでありますとか、12名の方のひなもりたいが活動しまして、読み聞かせや授業、体験活動の支援でありますとか、登下校の見守り活動に参加していただいております。これらは、学校教育の充実だけではなくて、子どもたちに地域で活躍する大人の姿を見せる機会にもなりますので、ふるさとを愛し、地元に基づく人材の育成にもつながるものと考えております。

一方で、右側をご覧いただきたいんですけども、地元企業や事業所などの産業界と連携した教育活動については、主に中学校の職場体験で支援をいただいている状況にとまっておりまして、課題のある状況でありました。

そこで、左のKSSVCのような学校と産業界をつなぐ体系的な教育を行うために、右側にありますような小林市キャリア教育支援センターを開設いたしました。これによって子どもたちの社会的・職業的に自立する能力が育ま

れ、ひいては地域の産業界を担う人材が育成されていくものと考えております。この支援センターについては、後ほど詳しくご説明いたします。

また、この図の中央をご覧いただきたいと思いますが、小林市は、全ての中学校区で小中一貫した教育に取り組んでおります。これまでの小中一貫教育の成果を生かしながら、系統性のあるキャリア教育の推進に取り組んでいきたいと考えております。

次のページをご覧いただきたいと思います。

今年度から始まりました小林の未来を担うキャリア教育推進事業についてであります。

まず、左側ですけれども、小中が一貫したキャリア教育については、市の教育研究センターでキャリア教育の推進に係る研究を行っております。具体的には、先日、児童・生徒、それから保護者の皆様、そして教職員にキャリア教育に関する実態調査を行っております。また、こすもす科を中心としたキャリア教育に関する事業の改善・構築を行って、地域住民でありますとか産業界を活用した授業づくりを今研究しているところであります。

なお、研究協力校としまして三松小学校と中学校を指定しております。両校では、研究センターと連携した授業実践を行うことにしております。

次に、右側をご覧いただきたいと思いますが、学校と教育資源をつなぐ取り組みについてであります。

先ほどご説明しましたとおり、小林市キャリア教育支援センターを小林商工会議所内に開設いたしました。支援センターには1名のキャリア教育コーディネーターを配置しております。下にありますような業務を行っております。例えば産業界のキャリア教育への理解の促進でありますとか職場体験の受け入れ先の開拓、それから、職業人による出前授業の講師派遣等を行っております。

センターは5月に開始をしましたが、これまでのコーディネーターの活動によりまして、31の事業所や個人事業主が学校教育への協力を受け入れていただいております。この図のように、キャリア教育支援センターが産業界でありますとか地域の人材を学校につないで、各学校のキャリア教育が充実するように取り組んでまいりたいと考えております。

なお、既にご案内をしておりますけれども、来週の木曜日、9月28日の午後

2時から小林市文化会館において市内の全ての中学校2年生を一堂に集めて、キャリア教育の講演会を行いたいと思います。講師は、元デンソーの技術者の方でありまして、現在は名古屋大学にお勤めの方です。科学技術の未来像からこれからの時代を生きていくために必要な力を話していただくことになっておりますので、お時間がありましたら、ぜひともご来場いただきたいと思います。

以上であります。

榎委員長 ありがとうございます。

何かご意見、ご質問等ありますでしょうか。

はい、どうぞ。

大部 薫委員長職務代理者 現在、職場体験を受け入れている企業は何社ぐらいあるんでしょうか。以前ですけど、15社ぐらいあったような記憶があったんですが、それが増えているのか。担任の先生たちが企業へ行って受け入れてくださいというのに大変苦労しているということで、今回こういうキャリア教育支援センターができたんですが、そういうことで、今までの企業よりも受け入れの数がちょっと増えたのか、それか、まだまだちょっと数が足りないのか教えて下さい。

大山 教育指導監 実は先日、中学校から事業所を見つけるのが非常に困難な状況にあるということでK S S V Cに問い合わせがありました。今、各学校でこれまでに受け入れていただいた企業を一覧のリストにして、それを今度は全ての学校で共有するというのをやっております。

100社近くはあると思います。かなりの数でした。ただ、全ての学校がそれぞれ開拓をしてやっていっていますので、いっぱいあるんですけども他の学校に伝わっていないというところがありました。今後は、先ほどから出ていますキャリア教育支援センターで情報を一本化させて提供するということになっております。

以上です。

榎委員長 すみません。このこすもす科というのはどういうものかというのを説明していただけますか。

大山 教育指導監 小中学校には総合的な学習の時間というのがあります。この時間が中学校では大体70時間で年間やっていますが、そのうちの35時間を小林市

独自の教材を使ったこすもす科という授業で行っております。

これは平成24年からテキストができて、具体的には、やはり社会に出てから必要となる資質・能力を身につけるとというのが主な目的でありまして、自立した一人の人間として力強く生きてくための総合的な力を育成する。ですから、今やろうとしているキャリア教育と方向性を同じにする授業であります。

例えば、実際の職場体験学習もそうなんですけども、立腰でありますとか鉛筆の持ち方なんかもこすもす科の中で小学校から段階的に教えていくというふうな取り組みを行っているものであります。県内でも非常に素晴らしい教材をつくっております。

榎委員長 ありがとうございます。

はい、どうぞ。

中屋敷教育長 38ページに登録企業等一覧があると思いますが、これは、キャリア教育支援センターのコーディネーターですけども、コーディネーターが本年の6月から今までに開拓した企業リストであります。ですから、コーディネーターは、朝早く商工会議所に行かれてメールチェックとかをされたら、もうすぐ外に出られて会社を回って、協力していただけないかということで精力的に動いていただいて、企業で30、個人事業主で3つの協力を得ています。ですから今年度の企業数はもう十分目標値を超しているんですけど、非常にありがたいと思っているところです。

榎委員長 はい、どうぞ。

椎屋委員 以前、呼び方はキャリア教育だったかどうかはわかりませんが、職場体験というようなことで、各飲食店だとかガソリンスタンドに各中学2年生とかが行って体験させておったんですが、それとの関係はどうなっていますか。

大山教育指導監 それです。

椎屋委員 それがこれにかわったということで理解していいんですか。

大山教育指導監 はい。全ての市内の中学校2年生で大体2日間、ある学校では3日間ほど企業に行って体験をしているものでございます。

椎屋委員 そうしたときに、以前に例えばうどん屋さんとかスタンドとかに行っていた企業は、ここにはまだ登録はできていないということでもいいんですかね。

大山教育指導監 これは、コーディネーター個人が開拓をした企業であります。先ほど大部

菌委員からありましたような、これまでのデータベースは、100社程度のものはもう別にあります。それを今後、ここの支援センターで一括して管理をしていくということにしております。

楨委員長

私の病院にも来てますもんね、始まったころから2人。中学校は毎年来ますもんね。役に立つとるかどうかはわかりませんが。

でも、来た子どもたちに聞いたら、やっぱり何か自分が将来なりたいようなところに行きたいというので来ているみたいで、看護師になりたいとか、薬剤師になりたいとか、医者になりたいとか、そう言って来ていますからね。そういったものがそういう人たちのモチベーションを上げるのに役立てば、それはものすごくいいことだと思います。

大山教育指導監

今おっしゃったとおり、子どもたちのニーズ感と行く職場ができるだけ一致をしたほうがいいとなると、やはり多様な職種、それから、たくさん子どもたちを預かっていただきますので、数も多くあったほうがいいだろうということで開拓をしています。

楨委員長

ありがとうございます。

中屋敷教育長

このキャリア教育は、今年から小林が重点的にやろうということで今いろいろやっているんですけども、社会教育の中でグローバルキッズというのがあります、いろんな体験コースをやっているんですが、そこで体験をした子がどういうふうになっていくのかというのを見たときに事業効果とか、そういうのが出てきます。今、社会教育課でそれができるかどうかの準備をしているんですけども、そのあたりを説明できればお願いしたいと思います。

楨委員長

はい、どうぞ。

日高社会教育課長

グローバルキッズの医療コースというものを3年前からしているんですが、今年度、市民病院で受け入れをしていただきました。その際に、参加の子どもたちに、将来そういう方向でいきたいんですかということで質問したところ、ほとんどの子どもさんが手を挙げた状況です。

ただ、その子たちが夢を持って医療の方向に進んで、ずっとその気持ちを持ったままいったというところもありますし、これまで3年間やってきた子どもたちが、じゃ、どういう方向で進路のほうに向かっているかということで、過去に参加した中で高校生になっているお子さんがいらっしゃいますので、直接アンケートを依頼いたしまして、現在どういう方向に進んでいるかとい

うことを調査している段階です。

槇委員長 何かないですか。

大角委員 こすもす科の教科書は学校に置いてあって家に持って帰らないじゃないですか。だから、保護者にこのすばらしい取り組みというか、そこがもうちょっと伝わったらよいと思います。また、職場体験も、うちの子どもも、以前体験したことがあったんですけど、余りよくわからなかったです。文書が1枚来て、職場体験とか何か選んでくださいとなるけど、結局は、その当時は受け入れるところも少なかったから、行きたいところに行けない感じでした。

大山教育指導監 よろしいですか。

槇委員長 はい、どうぞ。

大山教育指導監 確かに資料は毎年配布となると、予算の問題がありますので、学校に一式そろえて、それをみんなで使っているという状況であります。

ただ、今ありましたように、こすもす科のよさとか、どんなことを子どもたちが学んでいるかというのを伝えることは大切だと思います。また各学校の例えば参観日でこの授業を取り入れるとか、学級通信とかでお伝えするとかというような努力はしていけたらと思います。ありがとうございます。

槇委員長 ほかに何かないですか。(なし)

もう一つ、そういうふうになってそういうところに進んだ大学生とかがいますよね、今勉強している。そういう人たちを呼んで、自分がどうしてこういうところに行ったかということ、中学校とか小学校のときに考えて自分はこうしたということ子どもさんに話してもらうとか、そういうのも一つものすごくキャリア教育になっていくような気がするんですよ。もしできるなら、そういうこともお願いしたいんですけどね。

大山教育指導監 はい、わかりました。

槇委員長 はい、どうぞ。

大部菌委員長職務代理者 子どもたちが社会人とか職業人として自立していくために必要な能力、態度を身につけることを重視し、子どもの生きる力を育てることは大変重要なんですけど、その職場での例えば数日間の体験だけで職業感とか、そういうのを習得するのはちょっと難しいかなと思うんですけど。またその体験が、先ほど大角委員からもありましたけど、自分の希望の職種のところに行けた子はまだいいんですけど、私の息子のときも、もう受け入れる企業



がなく、全然関係のないところに行って、そこで体験はしたというようなことがあるんですが、またそういう体験も必要だと思います。

以前、私もちょっと話をしたんですが、こすもす科の授業と併用して、小学校から子どもの発達段階に応じた組織的、系統的なキャリア教育が重要じゃないかなと思うんですが、例えば高校に行って、今キャリア教育が必要ということで、高校ではそれが宮崎県でも必須になってやっているところもあります。今までの高校の進路指導というのは高等教育の進路指導に偏りがちで、進学希望以外の生徒に関する指導とか、学校から社会へ移行するときの支援が必ずしも十分でないと、学校で行っている学習と将来が結びついていないというのが現状かなと思うんですが、卒業生が在学時にこうしてほしかったという事柄の中で、例えば自分の個性とか適正を考える学習をしてほしかったと。また、保護者もそんなにたくさんのいろんな情報を持っているわけじゃないので、進路選択に対してアドバイスが難しかったということがあるんですね。

そして今、社会の予測がつかないというか、先日もテレビでありましたけど、コンビニがもう自動化になって、ローソンとか、そういうところが全部自動販売機みたいになっていくと。ということは、もうコンビニでバイトするとか、そこで労働する人たちが減っていくというような現状があるということですよね。だから、このことから、個人の未来図を明確にして、例えば企業の持つビジョンと一致させていく専門的なアドバイスをする専門家のお話も小林市キャリア教育センターで行っている内容にプラスしていくとよいですね。そういう専門的な話も子どもたちが講演とかいう形で聞くと、専門的な話ですので、自分の今の現状を見ながら将来のことを、子どものそれぞれの特性とかがありますので、そこら辺の進路の選択で、こういう職業にしてどういうふうな生き方をしたいのかと、そういう形につながっていくんじゃないかなと。だから、これプラス専門的なキャリアカウンセリングですか、こういうのが小林でできたらなと切に願っております。

大山教育指導監 ありがとうございます。

まず1点目が、今までの職場体験学習というのは、どちらかというと職業体験をすることを大事にしてきました。行った事後、じゃ、終わって帰ってきたなといったときには感想を書いて終わるとか、そういうのが多かったんで

すが、ではなくて、やはり行く前と終わった後で委員がおっしゃったようなキャリアプランニングに関するもの等をしっかり指導するというような体系的な指導ができるように、体験学習の前後にも支援センターからプランニングのお話のできる方を呼んで、効果的な指導になるようにしたいなというふうに思っております。

大部 菌委員長職務代理者 はい、よろしく申し上げます。

槇委員長 ありがとうございます。

中屋敷教育長 ここに30事業所がありますけども、今、コーディネーターがやっているのは、学校のニーズと企業のニーズをマッチングさせることなんですね。そのときに、今言ったように、今までのように職業を理解するだけじゃだめだと。生き方とか、そういうのを子どもたちに伝えてくださいというふうには言っていますので、今おっしゃったのを少しはクリアしていくかなとは思っています。

もう一つは、キャリア教育というのは職業体験だけじゃなくて、こすもす科は小学校1年から中学校3年まで系統ですとつくってありますけども、小学校の低学年は挨拶とか、当番活動を責任を持ってするとか、そういうレベルなんです。だから、結局そういうものが積み重なっていった社会的、職業的な自立に結びつくというように体系的にこすもす科はつくってありますので、それを十分身につけていけば、どこに行ってもいいような子どもが育つと思って各学校は頑張っているということです。

いろんなものが、例えば挨拶もそうですし、自分の考えはしっかり伝えましょうというのもあるんです。だから、そういうのが全部網羅してありますので、それができたときに役に立つのかなという感じはしています。

槇委員長 はい、わかりました。

それでは、どうもありがとうございました。よろしくお願ひしときます。

槇委員長 続きまして、TENAMUビルの運営、企画、集客方法について、お願いいたします。

日高社会教育課長 社会教育課です。

社会教育課では、TENAMUビルの運営、企画等、また集客方法について、協議していただきたいと考えておるところです。

先ほど、9月1日に事業委託をいたしましたということで報告をさせていただい

たんですが、現在、運営企画について、委託先のブリッジ・ザ・ギャップのほうで企画をしているんですけども、TENAMUビルは、市民が育てる市民主導型の施設として、生涯学習活動及び子育て支援の推進、それから交流活動の促進、まちライブラリーとしての読書推進を行って、市民の交流の場を提供したいというふうに考えているところです。

お手元にお配りをしております配置図なんですけども、この中のまずA、赤い部分、調理スペースなんですけども、ここについては、利用者への簡単な軽食や飲み物を提供したり、また料理講座、それから管理側が主催したイベント等でも利用したりできる場所としたいということで計画をしております。

さらに、畜産のまち小林市の食をテーマにしたイベントを開催したり、飲食店の開業を目指す人向けに、最長1カ月間ほどこのスペースでチャレンジカフェというような機能を持たせたいというふうに考えております。

Bの黄色いところのまちライブラリーのスペースでございますが、ここは、興味のある本を市民が持ち寄って、それを話題にコミュニケーションの輪を広げていくような新たなコミュニティーを生み出す場所としています。また、小規模なイベント、それから講座などを頻繁に開催したり、絵画、それから生け花などの展示会もできるようなスペースになっているところです。

また、窓際に霧島山が展望できるカウンターと椅子を設置しておりますが、景色を眺めながらの読書、それから学習もここでできるように設けていきたいというふうに考えているところです。

Cの青いところの部分です。木育キッズスペースでございますが、ここは、木育教材の設備を置いたり、子どもが自由に木のおもちゃで遊べる場所となっております。読み聞かせや親子で参加できる子育てイベントも開催できるスペースとなっております。子育て世帯の親同士のコミュニティーの創出、それから、気軽に子育て相談ができる環境づくりをしていきたいというふうに考えているところです。また、子育て支援課が実施しておりますファミリー・サポート・センターと連携をいたしまして一時預かり機能を設けて、子連れでもまちライブラリーとか講座などにも参加しやすい環境を整えたいというふうに考えているところです。

誰もが気軽に来られる場所として、また、ここに来れば誰かと会えるという

場所にしたいんですが、そのためにどのような運営企画、それから活用方法があるのかの意見をお聞かせいただきたいというふうに思っているところです。

楨委員長 ありがとうございます。

何かご意見等ないでしょうか。

大部 蘭委員長職務代理者 Cの木育キッズスペース、これも大変よいアイデアだなと思うんですが、私たちは、昔、小さい子が育つ段階で木をさわったりして育っていましたが、今はやっぱり子どもが木にさわるって余りないんじゃないかと思うんですけど。そういう意味でもすごくいいなと思っているんですが、乳幼児の発達の段階に多くの刺激の中から五感を発達させる段階があると聞くんですが、この時期に多様な刺激を与えることができる木製玩具で遊ぶというのはとても重要じゃないかなと思います。木製の玩具の特徴である例えば色とか木目、におい、あと音、温かく心地のよい肌ざわりとか、非常に多様な刺激があると思うんですけど、例えば教材に宮崎県の木を使った、自然そのままの木を切って、磨いて、それをいろんな形に伐採したのをつくって、積み木とか、そういうのがこの中にあったらいいなと思ったんですが。あと、ほかに、例えば未就学児の子育て中の親御さんを対象にした家庭教育学級とか、よそから来たお母さんたちもそうなんですけど、友達づくり、幼稚園に行けばお母さんも友達ができるんですけど、その前の段階というのは、なかなかやっぱり子育て世代の友達ができにくいということもありますので、ここで乳幼児さんとか、そういう子育て中のお母さんたちの家庭教育学級等、そういうのも何か講座でやっていただいたらどうかなと思うんですが。あと、例えば子育てをするとき雨の日、以前、私、委員会でもちょっとお話ししたんですが、雨の日に屋内で遊べるというか、子どももいっぱい駆け回ってというのは、雨の日に遊べる何かそういう施設が小林にあったらなと思って。ふわふわボールとか、あと何か、ボールのプール、あと小さい子どもたちが遊ぶ押し車みたいなのがいっぱいあって自由に、親御さんがそばにいて見守りながらそこで思い切り遊ばせるような、そういう施設がああ2階にあったらなというのを思っていたんですけど。その中に、子育てされている世代の方はそうなんですけど、あと一般の方対象で、今将棋ブームがありますので、将棋もできるとか、あと血圧計とかマ

ッサージチェアとか、そういうのもちよつとあつていいのかなど。百歳会館なんかは囲碁とかをされているみたいですけど、あそこにもそういうのを、もしスペースがあれば、自由なスペースでそんなのもあったらいいかなと感じました。

槇委員長 ありがとうございます。

大角委員 1つ目は質問なんですけど、先ほどチャレンジカフェで1カ月ぐらいと言われたんですが、その方がされているときには、そのスペースはほかの方は使えないのでしょうか。

あとは要望というか、思ったんですけど、先ほど大部菌委員も家庭教育学級のことを言われたんですけど、家庭教育学級は、中学校の子どもが終わると終わります。そして、野尻幼稚園は別ですけど、大概是小学校に入学したときから始まります。それで、中学校を終わってからでも、保護者じゃなくなってからも学校の垣根を超えて、そのとき学んだ人がこういうようなところでまた次の学びができたりとか、あとは、学校に入る前に先ほど言われたような子育ての学びの場がここにあったらいいなと思うし、あと、小林市外の人の参加もだし、講師というか、やってもらうというのは可能なんですかね。というのをお聞きしたいです。

松田主幹 まず、第1点のチャレンジカフェのことです。

今、調理スペースというのを整備した中で、実施できる事業、先ほど課長のほうからありましたとおり、小林の食材を生かしたいろんな郷土料理の講座であつたりとか、そういうのをしたいというのがまず第1点。

そしてチャレンジカフェについては、講座がないときとか、そして、この場所が中心市街地にあるというような部分もございます。中心市街地の今の状況というのが空き店舗等が多くて、その部分の活用というのをまた新たに考えているところでございます。この空き店舗につきましては、小さいショップであつたりとか、そういったところで利用したりするという部分もございますので、実際に就業をしたりとか起業をするというような部分での活用ができないかということで、今回このチャレンジカフェというのを考えたところです。

このチャレンジカフェにつきましては、今回運営をお願いいたしましたブリッジ・ザ・ギャップの中の1名の地域おこし協力隊の方は、フランス料理の

シェフでございます。そして、この方は名古屋から来られた方で、名古屋の中でも相当大きい店の経営等を任されていた方でございますので、そういった経営のノウハウであったりとか、地元の食材を使った料理の部分とか、そういったところも、アドバイザーとして、小林の起業されたいという方々に自分の持っている知識を提供したいというふうに考えているところです。

今、最長で1カ月等というふうに考えておりますけども、この辺はころ合いをもうちょっと見ながら、日にちについても考えていきたいと思っているところです。

また、先ほどありましたような市外の方との交流とか、そういったものなんですけども、今回、TENAMUビルにつきましては、やはり学びを中心としたところで、調理スペース、そして読書の交流スペースのまちライブラリー、そして子育てを基本とした木育のキッズスペースと、この3カ所ができていきます。

こういった中でさまざまな講座等を実施していくんですけども、今回、会議スペース的な講座ではなくて、いうなら広い図書館みたいなところで少人数で少しずつ講座等をしていく中で、それぞれにある講座のコミュニティーが連携していくとか、こちらのテーブルじゃこんな講座をしているんだ、向こうの木育スペースではこんな講話があるんだと、そして読み聞かせのところでこういった読み聞かせ講座があるんだというような、そういったいろんな団体であったりとか参加する方々がどんどん触れ合っていくって、コミュニティーを核としたまちづくり、居場所づくり、地域づくり、人づくりというふうなものに発展させていきたいというふうに考えております。

この中で、市外の方とのという部分につきましては、この隣には商工会議所があります。先ほどありましたキャリア教育関係の方々もいらっしゃいますので、そういったところの連携をしながら、もしくはいろんな市外の方々の団体とか、そういったところとの連携も図っていければなというふうに考えているところです。

日高社会教育課長 先ほど大部菌委員からいろんな提案をいただきました。ありがとうございます。

木育の教材についてなんですが、子どもには木をさわってとかということで五感の発達の促進、それから、親世代には木に囲まれた空間でリラックスを

してほしいというような、コミュニケーションをとれるような環境づくりをしたいなというふうに思っています。

あと、0歳から100歳までの全ての人がここで集えるような、市民に楽しんでいただけるような空間にしたいというふうに思っていますので、子どもが遊ぶところの横で高齢者の人たちがそれをほほ笑ましく見る姿とか、そういうところをイメージしているところでもあります。

高齢者の集いの場所というのも今いろいろとありますけども、昔は江南のところで買い物して、バスを待っている間とか病院に行った帰りにあそこでちょっと休憩する場所があったので、少し話せる場所になっていたと思うんですけど、そういうふうな感じで、1階が商店になっておりますので、買い物帰りの方、それから病院帰りの方なども気軽に来て、先ほど言われた血压計だったりとか、そういうのも置いて、気軽に本当に来られるような場所にしたいというふうに思っております。

松田主幹 よろしいですか。

槇委員長 はい、どうぞ。

松田主幹 先ほど木育の教材の話が出たんですけども、今回、宮崎県産材を利用した木育教材をお願いしているところです。そして、森林協会というのがございまして、そちらのほうで継承する宮崎県産材を使った木育教材、そういうのもそろえていきます。

また、先ほど言いましたブリッジ・ザ・ギャップのメンバーたちが、ちょうど今、ビルが建設中でありまして、あそこで出た木材の端材というのを今集めているところなんです。そういったのも使いながら木工教室を開いたりとか、そういうのもやっていきたいというふうに考えております。

以上です。

槇委員長 はい、ありがとうございます。

大部 薫委員長職務代理者 もう一つ。

槇委員長 はい。

大部 薫委員長職務代理者 以前は中学生の作品を郵便局に先生が持って行って展示をしていたりしたのがあるんですけど、今はちょっと見かけたことがないんですけど、例えばそういう市内の子どもたちの作品を展示してもらったらどうかなと。

あと、来た方にいろんな子育ての情報とか、そういうものをお知らせ板みたいな、今はでも張り紙というよりも、多分大きなテレビ画面みたいなので流れるのがつくかちょっとわかりませんが、ここに来たら市内の子育てのいろんな情報が、個人の情報でもいいと思うんですけど、何かそういうお知らせ板みたいなのもあったらいいかなと思います。

椎屋委員 まだ使用の仕方についてイメージがわからないというのが実感なんですけど、まず、業務委託契約の中身を見ていないので、どこまでの契約がなされているのか、その範囲、例えば運営までこの契約に含まれているのか。それと、このように誰でも来てくださいということはよくわかるんですけど、使用料とかは全くないんですかね。

松田主幹 こちらの委託業務の内容なんですけども、実際施設の管理、そしてここで実施する事業等の計画、そちらまでお願いをしているところでございます。また、使用料につきましては、こちらに実際いろんなスペースを設置しております。これのほうも条例の中で利用料金の設定はしております。ここを実際に占有して講座等を開きたいというような場合でありましたら、使用料をいただいて利用できるというような部分なんですけども、やはりここは市民の交流を主とした場所としたいと思っていますので、本当に講座等がないときであったりとか、そういった時を利用しての貸し出しになるのではないかなと思っています。使用料の収入なんかについては、公民館みたいにどんどん貸していきますよというような形での利用にはならないような感じになってきているのが現状であります。

椎屋委員 今、社会教育課等でやっている学習講座等をこの場所でとか、そういうことでは基本的にはないわけですね。

松田主幹 ここの場所につきましては、生涯学習の場所、もちろんこの公民館でも実施しているんですけども、やはり差別化を図ろうというのがメインであります。今回、ここは読書、図書であったりとか子育てであったりとか、公民館で行われないような講座であったりとかいうのをメインにこちらで実施していきたいと考えているところです。

榎委員長 ありがとうございます。

よろしいですか。(はい)

榎委員長 それでは、次の協議第3なんですけども、第2回こばやし霧島連山絶景マラ



ソン大会について、ご説明をお願いします。

深田スポーツ振興課長 スポーツ振興課です。

現在、第2回こばやし霧島連山絶景マラソン大会の開催に向けましては、運営委員会等で協議を行っているところでございます。今回から全ての種別におきまして、駅前をスタートといたしまして文化会館をゴールとするコースで行いたいと考えております。また、今回から、昨年までは10キロが最長だったんですけど、ハーフマラソンを実施する予定で、現在、コースについて選定を行っているところでございます。

お手元にレジュメがあり、次のページにハーフマラソン以下、10キロ、5キロ、3キロ、2キロ、1キロのコースを添付させていただいておりますので、コースにつきましては、これをご参照いただければと思っております。ここの部分につきましては、現在、警察署等とも協議の段階でございます。これを踏まえまして、2点ほど本日の委員会において意見を賜りたいと考えております。

まず、1点目でございます。参加賞及び振る舞い、おもてなしについてでございます。

その中の参加賞についてということで、去年は小林市で有名でございます黒豚みそ漬の冷凍を参加者に、1枚ずつお配りした経緯がございます。あとはタオル、地元の飲料水等を参加賞として配らせていただきました。

また、②の振る舞い、おもてなしについて、去年は牛汁の振る舞いを行っております。こちらにつきましても、第2回におきましては、何をやるかはまだ未定の部分がございます。また、おもてなしについて、コースの各所におきまして、キンカンであったり、バナナであったり、ミニトマトであったりのおもてなしを行ったところでございます。今回はハーフマラソンもございまして、結構コースにおけるおもてなしも重要になってくるのではないかと考えております。

あと、2の市民の参加についてでございます。

参加をいただいたランナーの皆さんからアンケート等をいただいたんですけど、市民の応援が少なかったとの意見が多数ございました。コースにもよりけりなんですけど、なかなか市内を通るコースの設定が厳しい面がありますので、今回もこのようなことがあるかもしれないと思います。そこで、

委員の皆さんには、市民の応援をどうやったら沢山集められるか、どのような方法があるかについてご意見を賜ればと思っております。

ちなみに、去年は約1,700名の参加をいただきました。今年につきましては、ハーフを実施するというので、目標といたしまして3,000人程をお迎えして盛大に開催できたらいいなと考えております。

以上、この2点につきまして、何かご意見等があればお願いしたいと考えております。

榎委員長 それでは、何かご意見ないでしょうか。

はい、どうぞ。

大部菌委員長職務代理者 参加賞についてですが、去年は豚のみそ漬けですか、あとキンカンとかバナナ、大変よかったんじゃないかなと思うんです。私自身がこういうのに出たことがないんでよくわからないんですけど、応援に行ったときに鹿児島県の菜の花マラソンに行ったんですが、そこのサツマイモをそれこそ何台もの機材でふかしてやったりしていたんですけど、小林でサツマイモはちょっと時期的にあれなのでだめかなと思いながら、でもこの時期、3月でしたよね。

深田スポーツ振興課長 3月です。

大部菌委員長職務代理者 ですよ。このころは何があるかなと思ったら、野菜はありますよね。だから、野菜でもまあ喜ばれるんじゃないかなと。無農薬の野菜とか、そういうのもいいかなと。あとイチゴもあるんじゃないかなと思ったんですが、3月ぐらいで。

深田スポーツ振興課長 取り入れていました。イチゴも、おもてなしで一応選手の皆さんには提供をしていました。

大部菌委員長職務代理者 何か参加賞とか、そういうのでまた来年来たいみたいな、というのもないかもしれないですけど、あるかもしれないので、ここは本当に十分に練って、いい参加賞で。Tシャツとかタオルなんかはもう一般的というか、どこでもあるので、多分走る方はたくさん持っているんじゃないかなと思って、それよりはちょっと変わったものがないかなと思いました。

あと、参加した方に、参加賞ではないんですが、地域の例えば飲食店、小林は割と食べ物がおいしいというか、お店なんかもおいしい店がたくさんありますので、ここと共同で企画して、例えばレース後にご当地グルメの食べ比

べができる回遊性のある参加賞とか、あと、タイムが早かったらもう無料で食べられるとか、何割引きとか、そういうのでアピールしたらいけないのかもしれませんが、そういうサービスもあって、これがよければまた来年も走ろうかなというのものもあるかなと思います。

あと、市民の参加についてですが、ボランティアについてアンケートをされたのはすごくよかったかなと思います。そして、私がちょっと不安に思ったのは、参加人数を今年頑張って1,728名も集めたと、これも大変立派なことだなと思って、来年ハーフをやるというので、多分ふえると予測しての3,000人でしょうけど、増えた場合の宿泊ですよ。あと余りに車がふえて渋滞して大会に間に合わなかったとか、そういうのも予測されるので、そこら辺は十分に検討していただきたいなと思って。

あと、ボランティアが今年が611名ぐらいで、1,000人を見込んでいらっしゃる。ことし600名もボランティアに来ていただいたので、これを組織化して、このボランティアでもう毎年やっていくんだったら、ボランティアの中でリーダーを育成していただいて、そこからいろんな人をお手伝いとか、そういうのに広げていくと、ボランティアもすんなり「来年またお願いよ」みたいな感じで集めることができるかもしれません。

ウェブサイトとか、メールとか、市報とか、チラシとか、自治会の回覧板とか、あとフェイスブックなんかも。最近、私、小学校に行ってこれを教えられて始めたんですけど、自分では全然発信しないんですが、人の発信を見るといろんな情報が入ってくるので、あれは割とつながりが、いいねと思うとみんな「いいね！」となるんですよ。今度大会があるから来てねといったら、「ああ、じゃあ行くか」みたいな形になるかもしれませんので、こういうフェイスブックとか、そういうのもまた利用されるといいかなと。

あと、須木地区で今されているジビエ料理ですかね、何かそういうのもありますので、そこら辺もちょっとPRできたらなと思います。

深田スポーツ振興課長 ありがとうございます。

楨委員長 ほかにないでしょうか。いいですか。

椎屋委員 市民の方でもあちこちの大会に参加される方もたくさんいらっしゃいますよね。聞けば、あそこは土産がいいとかいうのをよく聞くんですが、その人たちの意見も十分聞かれて、小林独自になるようなものがあるのかどうかも

含めて検討してみたらどうでしょうか。

楨委員長 はい、どうぞ。

中屋敷教育長 昨日、おとといでしたか、ハーフのコースを部長と車で試走をしてきました。コースがいいなと思ったのは、ずっと行って牧場を通るんですね。そして帰りに出の山に行くわけです。多分、そのときには桜は咲いていないだろうと思うんですね。ですから、出発前とか、あそこで牧場のプレゼンをしたら、あそこを走るときに、また咲くときに来ようというリピーターをつくろうということで、車の中でいろいろ相談をしながら走ったんですけども。だから、1回きりのイベントではなくて、季節ごとにこういうふうなのが見えますよというのをプレゼンしないといけないなと思っているところです。そのプレゼンの仕方をどうしようかなということがまだ決まっていないのですが、大型モニターでも駅に設置できて、小林のいいところを、四季折々のところが出せればいいんですけども、そこまでできないかなと思っています。しかし、走る人たちが、ああ、ここは今度また来てみようというようなマラソン大会にしたいという考えは持っています。

楨委員長 先ほど言われたように、走る人に聞いてみたら、どういうのがいいか。そういう集まりを一遍してみられたらいいですね。

それと、何月何日にハーフマラソンをしますということを早目にはっきりしたほうがいいですよ。去年は重なってしまって、出たかったんだけど、出られなくて別の大会に行ったとか、いろいろ言われたから、早目に発信するのが大事だと思います。

それとやっぱり、先ほど言われたように、駐車場がものすごく大事だろうと思います。駐車場と、皆さんがあそこにあれだけ集まるんだから、例えば2,000人来たらすごい数ですよ。そういう人たちがごちゃごちゃしないように、ずっとそこに集まれるような体制をいかにしてつくるかというのがやっぱり一番大事だろうと思います。それがうまくいくとものすごくイメージがいいみたいです。スタートの段階ですっとスタートのところに立って、すっと出発できたら、それはものすごくイメージがいいみたいです。その辺をやっぱりしっかり考えられたほうが、町なかだから特にそれを考えられたほうがいいと思います。それはもうお願いします。そうするとまた来られるかもしれません。市民参加もどんどん声をかけることですよ。

よろしいでしょうか。

椎屋委員 よろしいですか。

榎委員長 はい、どうぞ。

椎屋委員 ボランティアは去年が600人で、今回は何人ですか。

深田スポーツ振興課長 一応600以上で1,000名ぐらいが必要になってくるのかなと思っています。20キロを走りますので、結構交通整理人が必要になります。昨日、教育長がおっしゃったとおり走ったんですけど、裏道からの入り口が相当ありますので、そこを通行止めにしたりにするには、結構動員しないと厳しいのかなと思います。

榎委員長 それはあると思いますね。

大部菌委員長職務代理者 委員長、すみません。

榎委員長 はい。

大部菌委員長職務代理者 今年の大会に、私、応援に行ったんですが、私も菜の花しか見ていなかったので、あそこは2万人から来るんですね、全国から、初めから。だからもう規模がものすごく大きいんですけど、小林を見せていただいて、まだ1回ということもあつたんですが、走りに来た人が参加賞を楽しみにというところもあるんですけど、あと、例えば地元から出てきた旬の商品とか、果物とかなんとか、そういうのが少なかったなと思って。なかったですよ、お土産みたいなのを何か買うお店が。

深田スポーツ振興課長 土産屋さんがなかったということですね。

大部菌委員長職務代理者 なかったんですよ。鹿児島あたりだと、鹿児島県内でできるいろんな商品がブースにあるんですよ。だから、私たちは、用意ドンで走って行って戻ってくるまで何時間か、4時間ぐらいありますので、もう時間があるわけですよ。何をするかといったら、もうそこで何か食べたり、お買い物をしたり、その時間がまた応援の人は楽しいんです。ところが、小林にはそれがなかったもんですから。だから、商工会にでもちょっとまた声をかけていただいて、いろんな商店に参加していただくとまた活気が出ていいのかなと思います。

深田スポーツ振興課長 わかりました。

榎委員長 そしたら今の意見をよろしくお願いします。

それでは、協議をこれで終わらせていただきます。

槇委員長

その他は何かないですか。(なし)

教育委員の皆さん、何か意見交換はありますか。(なし)

ないようですので、平成29年第10回小林市教育委員会定例会をこれで閉会いたします。

どうもお疲れさまでした。ありがとうございました。

閉会

19:40

委員長

---

委員長職務代理者

---

委員

---

委員

---

教育長

---

調製職員

---